



かせぐみ 1月に入り、一段と寒くなり、雪が降る日が増えました。積もった日は暖かい格好をして戸外に出て、雪遊びを楽しみます。雪合戦や雪だるまを作るなど楽しみ方は色々です。

寒くても友だちと外に出ると自然と身体が動きます。長く遊ぶと冷えて遊ぶなくなることもあるので、短時間の外遊びですが、十分な気分転換になります。寒いからと室内にはばかり籠っていると元気を持って余り集中したり、落ち着いて遊ぶことができません。その時の子どもの様子を見て、遊びの内容を工夫したり、予定を変更したり、保育をしていきたいと思ひます。

描くことで自分を表現する



室内で過ごすことが多くなったので、描画を楽しむ機会を増やしています。何色かの画用紙の中から好きな色を選びます。描く時に使うのはペン、クレヨン、絵の具等です。画用紙をもらうとすぐに描き始める子どもや、描きながら何も描くかを決める子どももいます。家族と過ごしたこと、友だちと遊んだこと、好きな生き物を描いたり...今興味を持っていることを描いています。絵の大きさも紙いっぱい、描く子どもや、小さく描く子どもと様々です。紙いっぱい描くと元気良く見え、小さく描いていると自信がないのかな?と見えがちですが、そんなことはありません。細かいものを描くことを楽しんでいる時は絵も小さくなりやすいし、小さく描くことができる手先をコントロールする力もついてきたことが伺えます。最初は人を描いていても上からぐちゃぐちゃに塗りつぶす子どももいます。思うように描けなかった自分への苛立ちがあるのかもしれませんが、子どもが何気なく描いている絵にはたくさん思いが込められています。そして描いた絵を見て「いいね」「すげえね」と評価するような声かけをすることがあります。すると褒められたくて褒めてくれそうな絵を描くようになってしまいます。なので子どもが自分を表現したことは、そのまま受け入れるような声かけを心掛けています。子どもにしか描けない自由な表現、そこにある思いに気が付き寄り添っていきたくと思ひます。制作展でも子どもがどんな思いで描いたのか、どんなことに興味を持っているのか等々、思いを巡らせ、じっくりと見てください。新しい子どもの一面に出会えるかも?! かもしれません。

お知らせ

- ・自分のことは自分でしていきけるように、帰る準備もしていこうと思ひます。オヤツ後、汚れ物袋とタオルを自分でリュックの中に片付けていきます。
- ・朝の準備も一緒にすることで、覚えていきけるようにしてください。たいよう組になる頃には自分でできる事が身に付くように見直しを持って、少しずつ積み重ねていきたいと思います。

かせぐみ たいよう クラスだより 1月

早いもので新しい1年が始まって1ヶ月を終えようとしています。冬休み明けは休み中にあた出来事を嬉しそうに伝えたり、友だちと話したりする姿がありました。今年も京都も5年ぶりの大雪ということで、沢山雪が積もって園でも雪に触れて遊ぶことができました。まだまだ厳しい寒さが続きますが、風邪や感染症に気を付け、元気に過ごしていきたいと思ひます。



{ せうぐみ }

雪あそび

寒い日が続く、屋上で雪あそびをできる日がたくさんありました。手で角虫、て「つめたーい!」「ここぶあふわやー!」と感触を楽しんでいたかと思うと、すぐに雪合戦が始まります。何より、一番盛り上ったのは、ふちふちの雪に顔を埋めて作る顔型でした。手型を作っていた子どもの隣で「みてて」と保育者が顔を埋めると、「え!?なにしているの?」と子どもたち。目、鼻、口の形がく、きり残ったのを見て「えー!(笑)やってみたいー!」と何人もの子どもたちが、雪に顔を付けて大笑いしていました。雪だるまを作ったり、持ち帰り、雪がいつの間にか溶けてしまったり...何度も積もったことで「今度はこうしてみよう」と遊びのプランやイメージを膨らませ、この時期しかできないあそびをたっぷりと楽しみました。

協力して

ある日の音屋あそびのお片付けで、2人の子どもが大きな段ボールを窓際の柵の中に戻そうとしていました。でも柵は自分たちの身重より高く、何度挑戦してもなかなか入りません。すると、「どうしたん?」と一人が気付き、「てっただおか?」と一緒に入れようとしはじめました。「てっただおか?」と言われて「あ、そうか!」と気付いた初めの2人。全員に向かって「てっただお!」と大きな声で呼びました。糸局最後は全員で「いくぞー!せーの!!!」と段ボールを持ち上げ、やっと、やっと柵の中に入れられたのでした。どうなるのかと無言で見守っていた私も柵の中に入った瞬間、「やったー!」と入っていき全員で喜びました。保育の中で意図して協力できるような経験をもと考えていてもなかなかそのような経験をすることは難しいですが子どもたち自身が気付いて力を合わせ、達成できたことに拍手でした。何ともない日常のひとコマですが、成長を感じた出来事でした。年長に向けて、集団が大きくなりつつあります。こういう経験を重ねる中で、又、一つひとつの出来事を振り返り、全体の話し合いで子どもたちに返していく中で、役割を作り、工夫したりする力が伸びていくようにしていきたいと思ひます。



たいようぐみ

◎ お正月あそび

福笑いや羽根つき、凧あげなど年が明けて色々なお正月遊びを楽しみました。凧あげでは手作りの凧を作り、園庭公園に凧あげをしに行きました。午睡がなくなり、室内あそびの時間で描画に消極的だった子どもも、友だちの描く姿を見たり、自分の描きたいものを好きに描き始める様子も増えてきました。また、絵の具を上手に使う姿も多く見られるようになりました。今は描くことを楽しんでいて、ゲームなどのお話から友だちとイメージを共有する姿があります。描く楽しさを感じて、上での、日常の経験や自分で思い描いたイメージなどのお話を引き出すよう声をかけ、見守っていきたくと思ひます。凧作りの中でも、自分の好きな絵を描き、オリジナルの凧ができて嬉しそうです。完成すると早く揚げてみたくなって出発前からうずうずしています。公園で思いっきり走ると、凧がくるくる回って「うわー!おもしろー!」と笑顔の子どもたちです。凧を持って一斉に「よいとん!」と走り出すのを何度も楽しみました。



◎ 雪あそび

今年も雪も沢山降ったので、雪あそびに期待を膨らませていましたが、残念ながら中止となってしまいました。中止にはなりましたが、園での雪あそびができたことあって、納得した様子の子もいます。日が経つにつれて「ははせのおやまいさかかたあお」 「たのみみにしてこのに〜」 「もっかいおとまりほいくいさ〜」 「ホムちんにあえにかもしんののこ〜」と納得していた子どもも残念な気持ちを表す姿もあります。3月のお別れ遠足は行けそうです。お当番のお祈りも「コロナが早くおちついてみんなであそべますように」とお祈りする姿も見られるように、早く終息してほしいとみんなでお祈りしています。沢山の雪が降って、園では雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりして遊びました。お部屋の窓からも雪が降り積もっているのが見えて嬉しそうです。園庭では雪を固めて小さく山のようにして、丸めて海苔や保育者に当てたりして楽しんでいました。手袋をしていても手が冷えてきて「ハハ〜」息で「暖めたり、ほかに角虫かたりして暖をとっていました。園庭の雪は多少は湿っていたり、水分が多めだったので、屋上に上がると一面真っ白な雪景色で「うわ〜!」というもまた遠く景色に目が輝いていました。「かまくらつくろ〜!」とお話を語り、花壇の上に積もった雪や地面の雪は色んなところから雪を集めて固めていきます。「水もかたはからかためていくや〜!」とみんなに作り方を教えてくれる子どももいます。ジョウロやバケツ、ボットに水を入れて固めながら協力して作っています。「入り口はど〜にすろ!」「こが入りせうんちや〜」と相談しながら決めていきました。あ〜という間に兼食の時間になりました。かまくらまでとはいきませんが、ほろほろの向かいで園生かたスベスベができて、しゃがんで中に入り、嬉しそうに子どもたちでした。

